

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 1 区分
【発行日】令和 3 年 11 月 4 日 (2021.11.4)

【公開番号】特開 2020-119689 (P2020-119689A)
【公開日】令和 2 年 8 月 6 日 (2020.8.6)
【年通号数】公開・登録公報 2020-031
【出願番号】特願 2019-8387 (P2019-8387)
【国際特許分類】

H 0 1 R 4/50 (2006.01)

H 0 1 R 4/16 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 4/50 A

H 0 1 R 4/16

【手続補正書】
【提出日】令和 3 年 9 月 17 日 (2021.9.17)
【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】

【請求項 1】

押圧受部を有する第 1 挟持部と、
押圧部を有する第 2 挟持部と、を備え、
前記押圧受部と前記押圧部の少なくとも一方が、金属を含み、
前記第 2 挟持部が、前記第 1 挟持部若しくは前記第 1 挟持部を保持するハウジングに固定された時に、前記押圧受部の一方の端部側から挿入された線状導体が、前記押圧部と前記押圧受部とで挟み込まれ、前記押圧部及び前記押圧受部に接触し、前記一方の端部と前記押圧部との間で曲げられ、
前記第 1 挟持部は、前記一方の端部側に挿入口側凸領域を有し、
前記挿入口側凸領域は、前記線状導体の延伸方向に垂直な方向に向かって延び、
前記挿入口側凸領域の前記線状導体と接触する領域は、前記線状導体を前記押圧受部側から覆う第 1 の切り欠きを有する、コネクタ。

【請求項 2】

前記第 1 挟持部は、前記一方の端部側に挿入口側凸領域を有し、前記押圧受部の他方の端部側に背面側凸領域を有し、
前記挿入口側凸領域及び前記背面側凸領域は、前記線状導体に向かって延び、
前記押圧受部の前記線状導体と接触する領域は、前記挿入口側凸領域と前記背面側凸領域との間に位置し、
前記第 2 挟持部が前記第 1 挟持部若しくは前記ハウジングに固定された時に、前記線状導体が、
前記挿入口側凸領域と前記背面側凸領域と接触した状態で、前記挿入口側凸領域と前記押圧部との間、及び前記背面側凸領域と前記押圧部との間で曲げられ、
前記挿入口側凸領域の前記線状導体と接触する領域の前記押圧受け部からの突出量が、前記背面側凸領域の前記線状導体と接触する領域の前記押圧受部からの突出量よりも少ない、請求項 1 に記載のコネクタ。

【請求項 3】

押圧受け部を有する第 1 挟持部と、

押圧部を有する第 2 挟持部と、
前記第 1 挟持部を保持するハウジングと、を備え、
前記第 2 挟持部は、前記ハウジングと前記押圧部を覆うカバーを有し、
前記押圧受け部と前記押圧部の少なくとも一方が、金属を含み、
前記第 2 挟持部が、前記ハウジングに固定された時に、前記押圧受け部の一方の端部側から挿入された線状導体が、前記押圧部と前記押圧受け部とで挟み込まれ、前記押圧部及び前記押圧受部に接触し、前記一方の端部と前記押圧部との間で曲げられ、
前記カバーが前記ハウジングと前記押圧部を覆うことにより、前記押圧部が前記押圧受け部との間で前記線状導体を挟み込み、
前記カバーが前記ハウジングと前記押圧部を覆うことにより、前記第 1 挟持部と前記第 2 挟持部との固定が行われる、コネクタ。

【請求項 4】

前記押圧受部と前記挿入口側凸領域と前記背面側凸領域は、金属を含み、
前記第 2 挟持部が前記第 1 挟持部若しくは前記ハウジングに固定された時に、前記線状導体は、前記押圧受部と前記挿入口側凸領域と前記背面側凸領域で接触する、請求項 2 に記載のコネクタ。

【請求項 5】

前記線状導体は撚線で構成され、
前記押圧部の前記線状導体と接触する領域の前記一方の端部側から見た断面は、前記線状導体の側部の少なくとも一部を覆う形状を有し、
前記第 2 挟持部が前記第 1 挟持部若しくは前記ハウジングに固定された時に、前記押圧部の前記線状導体と接触する領域で、前記押圧受部と最も離れた部分と前記押圧受部との距離は、前記線状導体の径よりも短い、請求項 1～4 のいずれかに記載のコネクタ。

【請求項 6】

前記線状導体は撚線で構成され、
前記押圧受部の前記線状導体と接触する領域の前記一方の端部側から見た断面は、前記線状導体の側部の少なくとも一部を覆う形状を有し、
前記第 2 挟持部が前記第 1 挟持部若しくは前記ハウジングに固定された時に、前記押圧受部の前記線状導体と接触する領域で、前記押圧部と最も離れた部分と前記押圧部との距離は、前記線状導体の径よりも短い、請求項 1～4 のいずれかに記載のコネクタ。

【請求項 7】

前記線状導体は撚線で構成され、
前記第 2 挟持部が前記第 1 挟持部若しくは前記ハウジングに固定された時に、前記押圧部と前記押圧受部とで囲まれた領域の前記一方の端部側から見た断面は、前記線状導体を構成する複数の撚線の前記一方の端部側から見た断面積以上の断面積を有する、請求項 1～4 のいずれかに記載のコネクタ。

【請求項 8】

前記第 2 挟持部は、前記ハウジングと前記押圧部を覆うカバーを有し、
前記第 2 挟持部が、前記ハウジングに固定された時に、前記押圧受け部の一方の端部側から挿入された線状導体が、前記押圧部と前記押圧受け部とで挟み込まれ、前記押圧部及び前記押圧受部に接触し、前記一方の端部と前記押圧部との間で曲げられ、
前記カバーが前記ハウジングと前記押圧部を覆うことにより、前記押圧部が前記押圧受け部との間で前記線状導体を挟み込み、
前記カバーが前記ハウジングと前記押圧部を覆うことにより、前記第 1 挟持部と前記第 2 挟持部との固定が行われる、請求項 1 に記載のコネクタ。

【請求項 9】

前記第 1 挟持部は、第 1 側部を有し、
前記第 1 側部は、前記第 2 挟持部を回転可能な状態で保持する、請求項 1、2、4～7 のいずれかに記載のコネクタ。

【請求項 10】

前記第2挟持部の前記第1挟持部若しくは前記ハウジングへの固定は掛け止めであり、
前記第1挟持部は、前記第1側部よりも前記一方の端部に近い側に第2側部を有し、
前記第2側部は、前記第2挟持部を掛け止めするための凸部若しくは凹部を有する、請求項9に記載のコネクタ。

【請求項11】

前記第2挟持部が前記第1挟持部若しくは前記ハウジングに固定された時に、前記第2挟持部は、前記一方の端部に近い側と前記第1側部とを覆い、前記一方の端部に近い側と反対側及び前記第2側部を覆わない、請求項10に記載のコネクタ。

【請求項12】

前記押圧受部は、基板に固定される、請求項9に記載のコネクタ。

【請求項13】

前記第2挟持部が前記第1挟持部若しくは前記ハウジングに固定された時に、前記線状導体の中心軸が、前記一方の端部と前記押圧部の間でS字状若しくはクランク状に曲げられる、請求項1～12のいずれかに記載のコネクタ。

【請求項14】

前記線状導体は、取り外し可能である、請求項1～13のいずれかに記載のコネクタ。

【請求項15】

前記第1挟持部は、前記一方の端部側に挿入口側凸領域を有し、前記押圧受部の他方の端部側に背面側凸領域を有し、

前記挿入口側凸領域の前記線状導体と接触する領域の前記押圧受部からの突出量が、前記背面側凸領域の前記線状導体と接触する領域の前記押圧受部からの突出量よりも少ない、請求項1に記載のコネクタ。

【請求項16】

前記第1挟持部は、前記一方の端部側に挿入口側凸領域を有し、前記押圧受部の他方の端部側に背面側凸領域を有し、

前記第2挟持部が前記第1挟持部若しくは前記ハウジングに固定された時に、前記線状導体は、前記押圧受部と前記挿入口側凸領域と前記背面側凸領域で接触する、請求項1に記載のコネクタ。

【請求項17】

前記第1挟持部は、前記一方の端部側に挿入口側凸領域を有し、前記押圧受部の他方の端部側に背面側凸領域を有し、

前記挿入口側凸領域の前記線状導体と接触する領域の前記押圧受部からの突出量が、前記背面側凸領域の前記線状導体と接触する領域の前記押圧受部からの突出量よりも少なく、

前記第2挟持部が前記第1挟持部若しくは前記ハウジングに固定された時に、前記線状導体は、前記押圧受部と前記挿入口側凸領域と前記背面側凸領域で接触する、請求項1に記載のコネクタ。

【請求項18】

前記第2挟持部と前記第1挟持部との間であって、前記導体の挿入方向の一方の端部側と他方の端部側とに開口が設けられ、

前記第2挟持部が前記第1挟持部若しくは前記ハウジングに固定された時に、前記他方の端部側の前記開口から、前記線状導体の先端部が突出する、請求項1に記載のコネクタ。

【請求項19】

前記第2挟持部には、第2の切り欠きが設けられ、

前記第2挟持部が前記第1挟持部若しくは前記ハウジングに固定された時に、前記第2の切り欠きは、前記挿入口側凸領域と対向する位置に、前記線状導体を前記押圧受部側と反対の前記押圧部側から覆う、請求項1～18のいずれかに記載のコネクタ。